

茨木市長選候補者の横顔

右から届け出順。年齢は投票日現在。
四角囲み政党は推薦・支持。

8日投開票の茨木市長選は新顔4人が立候補した。4人の横顔を紹介する。(石田貴子)

「数合わせじゃない」反論原点

木本 保平氏 (67)

無新



「お祭りみたいで面白そう」と26歳で市議に立候補し初当選。11期務めた。初めての選挙で応援演説をしてもらった議員の「保守系の議員が足りない。何とか1人お願いします」との言葉に、「私は数合わせで立候補したんじゃない。自分の意見を言っ立候補します」と反論

そのときの聴衆の歓声が、政治への思いが芽生えた原点だという。高校から柔道を始め、関西大では柔道部の副主将。約30年間、市の体育館の道場で子供たちの指導にあたり、市柔道連盟の会長を務める。今は小学生の孫娘の成長が楽しみだ。「孫にじいじと呼ばれるのが嫌だね、ボスって呼んでもらっています」

「報告が基本」ブログ毎日更新

山下 慶喜氏 (59)

無新



鹿児島出身。高校時代、学生運動が盛んだった時期で、政治闘争に関心を持った。同志社大進学を機に茨木市へ。新聞奨学生として新聞配達をしながら通学した。「憲法を守りたい」との思いから在学中に日本社会党に入った。1980年、20代で市議に。「議員の活動は調査、発言、報告が基本」

と考え、ブログは毎日更新する。「大阪維新の会を止めたい」と出馬を決意。「権力者の考えを強制的ではなく、それぞれが自由に意見表明して、採り入れるべきところは採り入れ、一定の合意ができてからチームとしてやっていくべきだ」30代後半から本格的に始めたマラソンが趣味。フルマラソンは41回完走、ベストは3時間12分台。

女性の政治参加モデル役担う

桂 睦子氏 (43)

無新



3年間の服飾メーカー勤務を経て、フィリピンの孤児を支援するボランティアに携わる。「政治家になり問題を土台から変えたい」と貯金の50万円をはたいて市議選に挑戦。28歳で市議になった。「根っこが猪突猛進型。長距離タッシュで今まで生きてきた気がする」

全国の地方議員のネットワーク「虹と緑の500人リスト」共同代表を務め、女性に政治へのチャレンジを促す「ロールモデル的な役割」を担った。2度目の市議選の時に妊娠6カ月。そのときの娘は小学5年生に。最近、「家族3人がやりたいことをやっていくことはすごく大事。みんな力を合わせて頑張ろうね」と書かれた手紙をもらった。

医師の立場から安全安心追求

吉野 宏一氏 (44)

無新



6年前、茨木市で整形外科を開業した。「救急の患者さんが僕みたいな開業医のところに来る。27万都市なのに市民病院がなく、おかしなところだ」と2009年の衆院選にみんなの党公認で大阪9区から出馬。落選後も、医師の立場から市民が安全安心に生活できる町づくりを目指

したいと考え、今回の立候補を決めた。東日本大震災後の昨年4月、岩手県大槌町の仮設診療所でけがをした被災者の治療にあたった。機材も薬もない。「茨木も将来的に震災が起きた時のために備えが必要」と痛感した。高校時代はラグビー部のキャプテン。「今でも体を動かすのが一番好き」。ベンチプレスは165キを持ち上げる。